銅スクラップ1.8万トンに回復

廃アルミ缶は2割増

4月輸出

財務省が30日発表した4月の貿易統計によれば、銅スクラップの輸出量が1万8093トンと、今年に入り最も高い水準を記録した。前年同月比では26・2%減。中国向けが前月より約18%増と回復したことや、マレーシア向けが約2・6倍増となった。

アルミ缶スクラップの輸出量は6692トンと、前年同月比20・7%増えた。ロンドン金属取引所（LME）アルミ相場が一時2011年8月以来の高値水準に急騰したことや、円安に振れた影響とみられる。その他アルミスクラップは3・9%減の7755トンと、海外からの引き合いは限定的だった。

電気銅（陰極銅およびその断片）の輸出量は、前年同月比17・7%増の4万4497トンだった。17年は年間を通じ大手銅製錬メーカーの定修による生産調整があったが、今年は16年並みに回復することが予想され、輸出向け余力が出てきたもよう。

亜鉛地金99・99%未満の輸出量は2423トンと、前年同月よりほぼ倍増した。年初から2000トン台で推移するなど、15年以来の高水準が続く。三井金属などの出資する八戸製錬が国内唯一の供給基地になっている。亜鉛地金99・99%以上の輸出量は、前年同月比7・1%減の3103トンだった。

鉛地金の輸出量は2カ月ぶりにゼロを記録した。国内需給がタイトなため、余剰玉が少ない。

18年4月の非鉄金属輸出通関実績

（数量：トン、キロ当たり円、カッコ内前年同月）

	数量		平均単価	
▽粗銅および電解精製用陽極銅	—	(4)	—	(900.2)
▽陰極銅およびその断片	44,497	(37,795)	714.2	(633.8)
▽ビレット	1,080	(1,227)	769.2	(686.3)
▽その他の精製銅	2,665	(2,874)	751.5	(664.6)
▽黄銅地金	121	(217)	703.6	(656.3)
▽青銅地金	705	(538)	3,112.0	(633.3)
▽その他の銅合金（マスターアロイを除く）	447	(453)	776.6	(674.6)
▽銅スクラップ	18,093	(24,517)	337.7	(260.3)
▽銅のマスターアロイ	35	(71)	758.2	(754.0)
▽銅粉（薄片状のものを除く）	331	(387)	1,634.5	(1,689.8)
▽銅の粉（薄片状のものに限るおよびフレーク）	26	(34)	1,551.0	(1,581.8)
▽鉛地金	—	(4)	—	(313.9)
▽鉛スクラップ	163	(110)	225.4	(217.1)
▽亜鉛地金99.99%以上	3,103	(3,340)	350.1	(313.1)
▽〃 99.99%未満	2,423	(1,234)	363.1	(320.1)
▽錫地金	57	(41)	3,503.5	(3,580.5)
▽アルミ地金	53	(63)	786.4	(731.4)
▽アルミ合金地金	1,341	(3,036)	385.7	(282.8)
▽アルミ缶スクラップ	6,692	(5,544)	157.7	(147.4)
▽その他アルミスクラップ	7,755	(8,072)	166.9	(124.4)

アルミ地金4月輸入微減

合金は4%増

財務省が30日に発表した4月の非鉄金属輸入通関実績によると、アルミ地金は前年同月比0・8%減の12万3320トンとなった。アルミ圧延品などの製品需要の伸びが高止まりしたことで、輸入量はほぼ横ばいだった。アルミ合金地金は4・1%増の10万4901トンだった。年初から続いた円高ドル安傾向により、海外材の割安感が強まり、輸入量が増加した。銅スクラップは9・1%増の1万4479トンだった。黄銅・青銅スクラップは9・4%減の2302トン、銅合金スクラップは19%減の4747トンとそれぞれ減少した。複数の製錬メーカーは、大型炉修の間に積み上がった在庫を使用しているため、銅合金系スクラップの輸入量は減ったと考えられる。各製錬所とも、在庫はまだ豊富にあるもようで、しばらく増加に転じることはなさそうだ。

精製鉛は、95%増の3547トンと10カ月連続で3000トンを超える高水準を維持した。国内のバッテリーメーカーからの引き合いが依然堅調なため、今後も輸入量の増加傾向は続く可能性がある。

電気銅（陰極銅およびその断片）は42%減の1712トンだった。中間材料である銅アノード（粗銅および電解精製用陽極銅）は、12%増の1757トンとなった。

精製亜鉛99・99%以上は、29%減の1195トン。精製亜鉛99・99%未満は、40%増の681トンだった。錫地金は20%減の1881トン、ニッケル地金は51%増の4413トンとなった。

18年4月の非鉄金属輸入通関実績

（単位＝数量：トン、単価：キロ当たり円、カッコ内は前年同月）

	数量		平均単価	
▽粗銅および電解精製用陽極銅	1,757	(1,568)	756.4	(673.8)
▽陰極銅およびその断片	1,712	(2,951)	731.2	(654.5)
▽ビレット	—	(—)	—	(—)
▽その他の精製銅（精錬用）	—	(—)	—	(—)
▽その他の精製銅(その他のもの)	20	(4)	700.2	(1,840.3)
▽黄銅	47	(22)	584.7	(595.6)
▽青銅	20	(—)	720.0	(—)
▽白銅および洋白	—	(—)	—	(—)
▽その他の銅合金	196	(108)	2,785.9	(3,318.5)
▽銅スクラップ	10,479	(9,602)	640.3	(593.2)
▽黄銅・青銅スクラップ	2,302	(2,540)	594.0	(532.0)
▽銅合金スクラップ	4,747	(5,847)	636.0	(577.2)
▽精製鉛	3,547	(1,817)	282.8	(270.0)
▽精製亜鉛99.99%以上	1,195	(1,682)	372.4	(318.2)
▽精製亜鉛99.99%未満	681	(486)	354.0	(309.6)
▽錫地金	1,881	(2,364)	2,319.4	(2,244.4)
▽錫合金	0	(2)	19,285.7	(4,382.5)
▽ニッケル地金	4,413	(2,921)	1,384.7	(1,231.1)
▽アルミ地金	123,320	(124,258)	242.0	(220.0)
▽アルミ合金地金	104,901	(100,810)	229.5	(212.7)
▽アルミスクラップ	594	(613)	262.5	(208.9)
▽アルミ合金スクラップ	3,842	(3,672)	194.4	(192.1)

鉛・廃バッテリーなど買い取り
和興商事株式会社
TEL 047-402-3751

17年バーゼル法施行状況

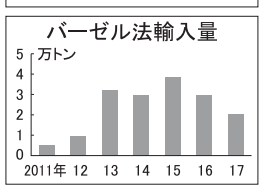
輸出、過去最高24万9000トン

環境省と経済産業省は29日、2017年のバーゼル法（特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律）の施行状況を発表した。同法の手続きを経て輸出された特定有害廃棄物の総量は前年比20%増の24万9000トンと過去最高を更新。半分以上が鉛蓄電池（廃バッテリー）だった。一方の輸入は32%減の2万トンと、2年連続で減少した。

輸出件数は1196件多い1203件。このうち約1070件を廃バッテリーが占めた。重量ベースでは廃バッテリーが約13万トンと52%を占め、その向け先は全量が韓国。それ以外では香港とタイ向けで石炭灰が11万2000トンあり、電子部品スクラップや金属含有スラッジが大半を占めた。輸入件数は357件。タイやシンガポール、香港からの電子部品スクラップや金属含有スラッジもわずかにあった。

輸入件数は357件少ない797件。タイは全量が韓国。それ以外では香港とタイ向けで石炭灰が11万2000トンあり、電子部品スクラップや金属含有スラッジが大半を占めた。輸入量が最も多かった15年の3万9000トンからは大きく減ったが、当時は国内メーカーが試験的に電気炉ダストの輸入を増やし、それだけで1万2000トン以上あった。17年はその輸入がなかったことの差が出た。

今年10月には改正バーゼル法が施行され、廃バッテリーなどの輸出は相手先での環境汚染防止措置確認の手続きが増え、逆に電子部品スクラップなどの輸入は手続きが簡素化される。19年以降はその影響が特定有害廃棄物の輸出入動向に影響することが考えられる。



新理事長登場

大阪非鉄金属商工協同組合

橋本 健一郎氏

会員増へ名称変更も

「組合の創設以来、最年少での理事長就任となるが、会員各社の皆さまの役に立てるよう『一意専心』の心構えで職務に臨みたい」。このほど、10代目の理事長に就任した。

「会員増加や組合の名称変更、後継者問題に対するアンケートなどに取り組んでいく。組合の存在感や活動をより充実するため会員を増やすことが第一の課題」。

名称変更についても、「当組合は『大阪』と付いているが京都組合の解散で他府県からの新規加入があったことや、会員数を維持・拡大するためにも『大阪』ではなく近畿や関西など広範囲を網羅したものに変えた方が加入を促しやすく、組合と縁がなかった業者も入りやすくなるのではないかと考えている」。

アンケートは「少子高齢化で、利益が出ていても後継者がおらず廃業するケースがある。当組合は総会員数67社（正会員62社、賛助会員5社）で、そのうち後継者でつくる青年部会員は14人。ほかの会員に、もし後継者がいない場合、10―20年先の組合は非常に寂しいものになる。組合の将来を見据えるためにも、後継者の有無などを調査し、今できることが何かを会員と共有していきたい」。

銅スクラップ業界の現状について「相場の乱高下や中国の輸入制限・禁止など、外部環境の変化に対応する柔軟性が求められている。国内は、伸銅・電線メーカーの買い気は強いとは言えない状況が続いており、購買品も高品位の物に集中している。輸入規制や関連法案についての情報交換やセミナー開催など、サポートできることは積極的に取り組む」。

（石橋 栄作）

▽橋本健一郎（はしもと・けんいちろう）氏＝1990年橋本アルミ入社、現取締役。趣味は、ジムトレーニングと食べ歩き。ダイエット目的で始めた筋トレで細マッチョの世界大会「ベストボディ・インターナショナル2018ホノルル大会」で優勝するなどストイックな一面を持つ。1969年12月25日生まれ、兵庫県出身。

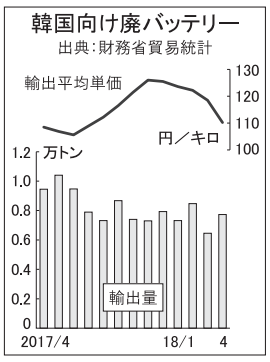
日刊産業新聞 18.5.31

廃バッテリー 対韓輸出4月7725トンに増

免許切れ迫り駆け込み

財務省が30日発表した貿易統計速報によると、廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の韓国向け4月輸出は前月比19・7%増の7725トン。ライセンス期限切れが迫る中、残る数量枠内での駆け込み輸出が増えたとみられる。輸出平均単価はキロ8・3円ダウンの110・2円と、9カ月ぶり安値に続落した。

鉛リサイクル原料の廃バッテリーは、二次精錬業が盛んな韓国筋の高値買いによって輸出され、ピーク時には国内発生の約4割が流出していた。しかし、韓国二次精錬業界の違法投棄問題や、日本側の法改正による輸出承認の厳格化により、昨年半ばから輸出ライセンスの更新が全面ストップしている。



輸出量は月1万トン前後だった昨年前半から緩やかな減少をたどり、3月は6453トンで2年4カ月ぶりの低水準だった。しかし、4月は再び増加し、過去6カ月平均（7477トン）を上回るレベルに達した。春先からは「輸出ライセンス枠を残している業者に売り込みが多くなっている（市場関係者）などという声が多くなっており、先安観も強まったことから売り急ぎが相次いだもようだ。

輸出平均単価は5カ月連続で値上がりし、昨年11月から比べると計15・8円（12・5%）ダウン。指標とされる鉛理論値の前月平均が下がったことや、手持ち筋の投げ売りが背景とみられる。なお、足元の市中相場はすでに80円台後半まで落ち込んでおり、5月も大幅続落が予想される。

主な港別の輸出量と単価は、東京港1959トン（107・4円）、門司港1230トン（111・8円）、清水港983トン（107・7円）、石狩港646トン（112・5円）、大阪港616トン（112・8円）、秋田船川港491トン（108・9円）、苫小牧港339トン（118・3円）、名古屋港301トン（114・1円）。清水港の積み出しは1年10カ月ぶりの多さだった。

ものづくり白書

人手不足の対策紹介

17年度 アーレスティなど

経済産業省がこのほどまとめた2017年度のものづくり白書では、国内製造業が直面する課題として人手不足を掲げる。白書の中では、こうした課題を克服するための生産性向上や人材育成に関する優れた取り組みとして、アーレスティや東京鋳造所、アズビル金門青森など金属素材や加工メーカーの事例を紹介している。

ダイカストメーカーのアーレスティは、鋳造データ記録に品質情報を加えたトレーサビリティーシステムを導入している。鋳造工程で製品ごとにレーザーで個体識別番号を刻印するもので、製品ごとの鋳造条件を確認できる。こうしたシステムは決して特別ではないが、トレーサビリティの結果と鋳造条件をひも付けて設計や製造にフィードバックし、不良品の低減に結び付けていると評価する。

アルミ鋳物メーカーの東京鋳造所は、職人の技術が生かせる工程は人が行い、それ以外はロボットに任せるという仕分けを進める。具体的には、鋳造後の切断やバリ取りはロボットで自動化し、これにより省人化できるだけでなく冷却待ち時間の省略で生産性も向上したという。

水道メーターの国内トップメーカーグループであるアズビル金門青森は、国が推進する生産性向上支援訓練を活用。若手から中堅層まで品質管理の基本から実践的な問題解決手法を習得させることができたという事例を紹介している。

銅・銅合金出荷、受入量を上回る

非鉄金属リサイクル全国連合会（会長＝小林秀之・秀邦金属社長）は、30日に3月の非鉄金属原料取扱調査の結果を発表した。銅と銅合金は、月間出荷量が月間受入量を上回り、発生が少なかった状況を映し出した。一方、アルミとその他のスクラップは月間受入量が上回っており、発生があった状況をうかがわせた。

3月の非鉄金属原料取扱量

（単位：トン）

品種	月初在庫	月間受入	月間出荷	月末在庫
銅	8,607	11,224	11,248	8,753
銅合金	6,620	5,514	6,550	6,894
アルミ	2,357	7,548	7,445	2,455
その他	6,879	11,295	11,138	6,578

中国メーカー向け銅棒圧延機受注

英プライメタルズ

納入が決まった「SCR―7000」

プライメタルステクノロジーズは30日、米サウスワイヤ社から中国の伸銅メーカー向けの銅棒圧延機を受注したと発表した。納入先は江蘇中広潤新素材（ZGR）で、2019年半ばの稼働開始を予定している。

ZGRは2012年に同社の銅棒圧延機「SCR―4500」を導入。銅、銅合金の棒や線を製造しており、年間生産能力は25万トンあるという。このほど納入が決まった圧延機「SCR―7000」は直径が8、9・5、12・7、16、18ミリメートルの銅棒が製造できる。8ミリ棒ならば1時間に48トン、年間で約32万トンの生産能力がある としている。

ライトダウン本年も参加

フジクラ

フジクラは30日、「ライトダウンキャンペーン2018」に、同社グループとして今年も参加すると発表した。同キャンペーンで実施するのは、会社が6月21日（夏至ライトダウン）の午後7時から翌朝まで。家庭では、6月5日（世界環境デー・ライトダウン）と21日（夏至ライトダウン）、7月7日（七夕ライトダウン）のそれぞれ午後8時―10時までの2時間。

開催告知

来月15日に光材料・応用技術研

光産業技術振興協会は来月15日、2018年度第1回の光材料・応用技術研究会による講演と国際会議報告を、東海大学高輪キャンパス（東京都港区）で開催する。このうち、講演では光通信技術の最新動向や、5G無線技術などに関する紹介が行われる予定だ。

港別のLME非鉄金属在庫

（18年5月25日現在、単位トン）

▽銅	294,750
デュバイ	0
アントワープ	2,250
ハンブルク	0
バルセロナ	0
ビルバオ	25
ハル	3,150
リバプール	16,600
レグホーン	0
トリエステ	0
仁川	50
光陽	1,275
釜山	10,650
ジョホール	625
クラン	18,750
ロッテルダム	78,475
ブリッシンゲン	75
ヘルシンケポリ	0
シンガポール	52,025
ポルティモア	0
シカゴ	100
モービル	25
ニューオーリンズ	73,300
セントルイス	0
高雄	37,375
米パナマ	0
ムールデイク	0
▽アルミHG	1,219,250
アントワープ	8,125
ブレーメン	0
ハンブルク	21,000
バルセロナ	0
ビルバオ	21,175
ハル	25
リバプール	0
タイン＆ウェア	0
ジェノア	0
レグホーン	0
トリエステ	20,975
名古屋	0
横浜	0
釜山	48,275
光陽	31,775
仁川	1,800
ジョホール	32,575
クラン	314,725
ロッテルダム	420,100
ブリッシンゲン	72,200
ヘルシンクポリ	0
シンガポール	142,375
ポルティモア	6,675
シカゴ	0
デトロイト	53,600
ロングビーチ	0
ロサンゼルス	0
モービル	0
ニューオーリンズ	450
セントルイス	0
米トレド	0
オーエンズボロ	10,250
高雄	7,875
ムールデイク	5,275
▽ニッケル	294,804
デュバイ	12,906
アントワープ	312
ブレーメン	0
ハンブルク	0
バルセロナ	0
ビルバオ	0
ハル	0
リバプール	300
タイン＆ウェア	0
ジェノア	0
レグホーン	0
トリエステ	0
釜山	1,446
光陽	1,596
仁川	0
ジョホール	123,816
クラン	366
ロッテルダム	50,952
ブリッシンゲン	0
ムールデイク	2,910
ヘルシンクポリ	0
シンガポール	52,860
ポルティモア	3,030
シカゴ	0
デトロイト	0
ロサンゼルス	0
モービル	0
ニューオーリンズ	0
セントルイス	0
米トレド	0
高雄	44,310
▽鉛	134,050
デュバイ	0
アントワープ	31,250
ブレーメン	0
ハンブルク	50
バルセロナ	2,300
ビルバオ	3,875
ハル	0
リバプール	0
タイン＆ウェア	0
ジェノア	0
レグホーン	5,550
トリエステ	300
釜山	17,225
仁川	0
高雄	6,825
ジョホール	0
クラン	18,075
ムールデイク	1,675
ロッテルダム	27,400
ブリッシンゲン	19,525
ヘルシンクポリ	0
シンガポール	0
ポルティモア	0
シカゴ	0
デトロイト	0
ロングビーチ	0
ロサンゼルス	0
モービル	0
ニューオーリンズ	0
セントルイス	0
米トレド	0
▽亜鉛	228,975
デュバイ	0
アントワープ	60,050
ハンブルク	0
ブレーメン	0
バルセロナ	0
ビルバオ	600
ハル	0
リバプール	0
タイン＆ウェア	0
ジェノア	0
レグホーン	0
トリエステ	0
ジョホール	775
クラン	0
ロッテルダム	0
ブリッシンゲン	0
ヘルシンクポリ	0
シンガポール	0
ポルティモア	0
シカゴ	0
デトロイト	0
ロングビーチ	0
ロサンゼルス	0
モービル	0
ニューオーリンズ	0
セントルイス	0
米トレド	0
▽錫	2,450
アントワープ	0
ハンブルク	0
バルセロナ	0
ビルバオ	0
ハル	0
リバプール	0
タイン＆ウェア	0
ジェノア	0
トリエステ	0
釜山	25
光陽	0
ジョホール	10
ポートクラン	2,235
ロッテルダム	0
ブリッシンゲン	0
シンガポール	180
ポルティモア	0
ロサンゼルス	0
モービル	0
ニューオーリンズ	0
高雄	0
▽アルミ合金	12,220
アントワープ	3,820
ブレーメン	0
ハンブルク	0
バルセロナ	0
ビルバオ	0
ハル	0
リバプール	0
タイン＆ウェア	0
ジェノア	0
レグホーン	0
トリエステ	320
釜山	40
光陽	40
仁川	0
ジョホール	80
クラン	60
ロッテルダム	580
ブリッシンゲン	20
シンガポール	7,260
高雄	0
▽北米特殊アルミ合金	168,600
ポルティモア	6,140
シカゴ	48,500
デトロイト	45,860
ロングビーチ	0
ロサンゼルス	540
モービル	3,200
ニューオーリンズ	62,100
オーエンスボロ	1,480
セントルイス	680
米トレド	100

希土類（レアアース）価格

（CIF日本、純分99%、キロ当たりドル）

	5月30日	4月平均
酸化ランタン	2.90	2.90
酸化セリウム	2.80	2.80
酸化プラセオジム	72.00	72.00
酸化ネオジム	60.00	60.00
酸化サマリウム	2.80	2.80
酸化ユウロピウム	62.00	62.00
酸化テルビウム	520.00	520.00
酸化ジスプロシウム	195.00	195.00
酸化イットリウム	3.90	3.90
金属ネオジム	75.00	75.00
金属ジスプロシウム	280.00	280.00
金属プラセオジム・ネオジム	75.00	75.00